

ふるさと大発見！
ひょうたん宝島



『じまん』の町北島

このマップは、北島北小学校6年生が『自分の町 宝物 発見！』をテーマに、町の伝統文化について調べたものです。

ふるさと「北島」をもっと知り、大好きになってほしいと思います。



指定・登録文化財の説明だよ。

1 円通寺のモッコク (町指定天然記念物)



- 樹齢約 500 年。木の周りは 1.85m、樹冠は東西、南北ともに 13.4m で県下第 2 位の大きな木である。(指定当時)
- ツバキ科の常緑喬木で、葉が緑で厚く、光沢があるのが特徴である。
- 初夏に小さい花がさいて、晩秋には丹赤色の種子をつける。

2 円通寺の十一面観音立像 (町指定有形文化財)



- 平安時代末期～鎌倉時代初期の造立。
- 十一の顔を持っていることから、十一面観音像と言われる。
- 観音像は、苦悩を和らげ幸福をもたらす仏様と言われている。
- 高さ 91cm。
- 左手には蓮花を持ち、右手は指を開き前向きにだらんと下げている。

3 円通寺の極楽廿五菩薩来迎図 (町指定有形文化財)



- 極楽廿五菩薩来迎図は、江戸時代のもので、弘化 2 (1845) 年に京都の絵師である森田易信によって描かれた。
- 来迎図は縦 158.5cm、横 160.2cm もある大きな物である。
- 中央に描かれた阿弥陀如来とともに観音菩薩、勢至菩薩などの菩薩が笛を吹き、太鼓を打つなど演奏している。

4 北島町検地帳群 (町指定有形文化財)



- 昔、北島町ができるまでの過程を示しており、郷土資料として欠かすことの出来ない貴重な物であり、217 冊もある。
- 県内でも古いもののひとつである大正 17 (1928) 年(太閤検地)の検地帳、慶長 9 (1604) 年の検地帳、その他、北島町に関する古文書・絵図等が一括して保管されている。

5 新喜来検地絵図 (町指定有形文化財)



- この検地絵図は、元禄 10 (1697) 年に作成され、縮尺約 600 分の 1 で実測図に近いものと推測される。
- 大きさは、縦 2.4m、横 1.8m。
- 北島町新喜来のほぼすべてをかいており、お蔵地「落直轄の土地」と給地「家臣にあたえた土地」が土地一筆ごとにあざやかに色分けされている。
- 大変貴重な絵図資料である。

6 一石五輪 (町指定有形文化財)



- 一つの石に、仏教思想の世界を構成する五輪【空・風・火・水・地】を象った墓塔・くよう塔で、高さは約 50cm である。
- 正面に、「道慶禪定門 元亀 3 (1572) 年 7 月 21 日」の銘文がある。
- 近辺では、最も古いものといわれている。

7 光蓮寺の夢告げ地蔵 (町指定有形文化財)



- この地蔵尊は、台座共一石造りである。
- 昔は堤防の近くにあった。地蔵が、村人の夢枕に立って、大雨で堤防が切れそうなことを知らせた。村人は地蔵を光蓮寺へ運んだ。
- 運んだ地蔵の霊力によって堤防が切れるのを防ぐことができたと言われ、祀られている。

8 将軍塚 (町指定史跡)



- 旧中村城跡だったといわれる竹やぶにある。
- 竹やぶの中に小さなほこらがあり、えらい武士のお墓だと言い伝えられている将軍塚は、足利義冬公の遺品をうめて、拜むように作られた「拜み墓」ではないかと考えられている。所有者の先祖は、義冬公の館の留守居役としてかかわりがあったと考えられる。

9 光福寺のイチヨウ (県指定天然記念物)



- 樹齢約 400 年。
- 主幹周 7.75m、樹高 20m、地上 4m。枝張り、東西 18m、南北 18m の県下 8 位の大樹である。(指定当時)
- 秋は紅葉し、落葉すると境内に黄色の葉がしきつめられ、とてもきれいな景色である。「糸ひき婆さんの伝説」が有名で、隣村からも糸を紡ぐピーンピーンという音を聞きに来たそうである。

10 光福寺の弘法大師坐像 (町指定有形文化財)



- 元禄 3 (1690) 年に淡路の仏師である伊予源右衛門家次が制作した。
- この仏像は材木を組み合わせる寄木造りという工法である。
- 座高は 60cm、いすに座っておられ、左手には数珠、右手には五鈷杵を持っている。数珠は仏に拜むためのもので、五鈷杵は人の悩みや苦しみのもとになる欲を取り除くためのものである。

11 北村天満神社奉納獅子舞 (町指定無形民俗文化財)



- 起源は、文化年間(1804~1818年)以前である。今から200年ほど前、社殿造営の際に、讃岐国から導入されたのが始まりである。
- 秋大祭、元旦祭に五穀豊穰と世の太平を祈願して氏神に奉納されている。
- 大太鼓、小太鼓及び拍子木に合わせ、雌雄一對の獅子舞を演じる。

12 能満寺の木造十一面観音立像 (県指定有形文化財)



- 十一面観音立像は、北島町の仏像の中で最も古く、一木造りである。目は、彫眼(彫刻された目)である。
- 左手に蓮花をさした水びょうを持ち、右手は、垂下して手のひらを前に向け、右足をややゆるめて立ち、雄偉な姿をしている。

● 名前の由来は、頭に十一個の顔があることから「十一面観音立像」とよばれている。

13 阿波藍長板中形染 (町指定無形文化財)



- 中形とは、木綿の浴衣地のことである。
- 伝統的伊勢型紙を用い、約6mの長板にはりつけた木綿の浴衣地に型付けし、連続模様を作り出す。
- 染色法は、型染の一種である中形染。
- 藍と白の清らかで澄みきった美しい模様である。

14 荒神社のオガタマノキ (町指定天然記念物)



- オガタマは、おきたま(招霊)の転化したものといわれ、神聖な木とされる。
- 幹の周りが約1.13m、樹冠東西約9.2m、南北約10.3mである。(指定当時)
- モクレン科に属する常緑喬木で、葉に光沢があり、早春に白い小花を咲かせる。9月~10月には、ぶどうの房のような実果が実る。

15 太郎八須開拓者夫婦の碑 (町指定有形文化財)



- 太郎八須は、この地を開拓したといわれる市原太郎八という人物の名が、地名の由来といわれている。
- 太郎八須の荒神社境内にある砂岩製の五輪塔が、市原太郎八夫婦の碑といわれている。
- 右側が夫の碑で左側が妻の碑である。元は個人宅にあったが、数回の移設を経て、現在の場所へ移設された。

16 大將軍神社のクスノキ (町指定天然記念物)



- 樹齢は推定約250年~約350年ともいわれている。
- 幹の周りの長さは3.4m、樹冠東西21.4m、南北15.6mである。(指定当時)
- 北島町で一番大きな木である。
- 常緑喬木で、防虫効果がある。神社の入り口にあり、良い香りがする。

17 一石五輪塔・板碑・画像碑 (町指定有形文化財)



- 阿部式部太夫政吉公が由岐に一城を築き、次男の源藤治定永公を城主とした。
- 中富川の合戦の後、江尻の大正蔵坊に帰農した。
- 前城主の先祖を祀るために、位牌・石碑を引き取ったものであると伝えられている。

18 正通寺の宝篋印塔 (町指定有形文化財)



- 宝暦11辛巳(1761)年の造立。
- 高さ約3.75m。
- 罪障消滅・寿命長寿の宝篋印陀羅尼というお経の中に、「このお経を信仰すると、地獄の門を破って極楽往生できる」とあり、この塔の造立によって、亡者・衆生が済度されるという信仰から造られたものといわれている。

19 正通寺の弥勒菩薩坐像 (町指定有形文化財)



- 天明8(1788)年の造立。
- 弥勒菩薩は、将来この世に現れて、釈迦仏の救済できなかった衆生を残らず救うといわれている。
- 現在は天にあって天人に説法しているが、まだ仏となる以前の段階なので菩薩とよばれている。
- 手前に両手で、宝塔をささげ持っているのは、江戸時代の特徴を示す。

20 正通寺の梵鐘 (町指定有形文化財)



- 高さ60.5cm。町内にある梵鐘の中で1番古い。
- 底面に次の刻銘がある。『宝暦5亥7月阿州板野郡鯛浜村 正通寺什物 施主攝州大坂近江屋伊兵衛』。このことから、宝暦5(1755)年に寺の什物として、大阪の近江屋伊兵衛(鯛浜出身石工)が寄進し、故郷に錦を飾ったことがわかる。
- 造ったのは、菅原安欲である。

21 水神社の社叢 (町指定天然記念物)



● 指定当時には、社叢は約400本あり、推定樹齢約130年になる町内3番目に太いクロマツやクスノキ、推定樹齢約120年で町内第2位のホルトノキやクロカネモチなどがあった。

- 現在、樹木は虫の被害で少なくなっている。
- 昔の徳島県（徳島が阿波と呼ばれていた時代）で有名だったのが、水神社の競馬である。

22 水神社天井絵及び競馬関連用具 (町指定有形文化財)



● 水神社では大正10年ごろまで阿波競馬が行われていた。競馬は祭りに行われた奉納競馬であり、たくさん見物人が集まった。

● 天井絵には馬、頭巾等競馬関係のものが多く描かれていたが、

平成13年の神社の建て替えの際に外されている。外された絵の総数は208枚もあり、その内一部を除いて競馬関連用具と共に町立図書館に保管されている。

23 東高房獅子舞—大江山劇付— (町指定無形民俗文化財)



- 起源は、正徳享保年間(1711～1736年)と伝わる。
- 八坂神社の建立とともに獅子舞が奉納されたのが始まりとされる。
- 獅子舞は4番まであり、大小の太鼓に合わせて2頭の獅子が舞う。
- 獅子舞のあとに「大江山の鬼退治の劇」がある。

(主な参考・引用文献)

- 北島町勢要覧
- 阿波の民話 第12集・第14集
- 北島町教育委員会編『北島町の文化財 第1編』(昭和57年3月)
- 北島町教育委員会・北島町文化財保護審議会編『北島の語り部たち』(昭和61年3月)
- 北島町教育委員会・北島町文化財保護審議会編『北島の語り部3』(平成16年3月)
- 北島町史編集委員会『北島町史』(昭和50年3月)
- 徳島県教育委員会『徳島県の近代和風建築—徳島県近代和風建築総合調査報告書—』(平成25年3月)
- (写真提供) 江富久雄氏 光福寺

24 安楽院の薬師如来坐像 (町指定有形文化財)



● 薬師如来坐像は、人々の病気をはじめとする苦悩を解決してくれる仏様であり古くから人々の信仰が厚い。

● 左手には、薬こを持ち人々を救う薬が入っている。右手は、ひじを曲げ5本の指を伸ばしている。

- 全身に金箔を漆で貼り付けているので光って見える。両目には、玉眼と言ってガラスの玉を入れてより写実的にしている。

25 十六人塚 (町指定有形文化財)



- 天正10(1582)年に富岡城の城主、新開遠江守道善が長曾我部元親に殺された。家来16人が中村城をたよって、江尻の八幡神社の馬場までやってきた。
- しかし、すでに落城しており、追手も厳しく、逃れることができないと最後にお互いが刺しちがえ、この地で自刃した。村人は憐れみ、一カ所に集めてていねいに埋めて塚を作り、供養した。

藤田家住宅 (国登録有形文化財)



- 旧吉野川沿いに建つ農家。
- 敷地の中央に主屋を構え、北に裏納屋兼離れ、西に蔵などがある。蔵は基礎の石積みが高く組んで、洪水に備えている。
- 古い家の建て替えが進む町内で、大正から昭和初期にかけての農村住宅の様子を今に伝えている。

※見学の際、私有地には所有者の許可を得て、お入りください。



北島町の紹介

【位置】

- 徳島県の東部海岸の北半分に位置する。
- 吉野川が紀伊水道に注ぐ河口の三角州となった平野のほぼ中央にある。

【面積】

- 東西 3.86km 南北 4.42km 総面積 8.77km²

【地勢】

- 旧吉野川と今切川に囲まれた「ひょうたん形」の島になっている。
- 土質は、壤土で地味がよく、米作を中心に、果樹、れんこん、花きなどが栽培されている。

- 豊富な伏流水と水陸の便に恵まれ、県下有数の工業地帯でもある。

【町章】

- 図柄は、北島町の頭文字「北」を図案化している。
- かたどる飛鳥で町の飛躍向上を表し、円形は町民の団結と友愛、限りない発展を表現している。



【町の木】 ・もくせい

【町の花】 ・きく

